

# あきたの うりいかち VOL. 493 2017.1.20

## 謹賀新年

### 「飛来する白鳥」

写真は12月上旬に雄物川上流にある当土地改良区が管理する山田頭首工付近に飛来していた白鳥を撮影したものです。冬が到来すると河川や田んぼでその姿を見ることができますが、北の方から越冬のため日本に飛来し、春になると帰るために飛んでいく姿は、季節の移り変わりを感じます。

写真提供：木村 恭平  
(雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区)



イメージキャラクター  
みどりちゃん

CONTENT 1 新年挨拶

CONTENT 2 農業農村整備の集い

# 新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

明けましておめでとうございます。

会員並びに関係の皆様には、ご家族様共々、健やかに新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、平素より農業農村整備事業の推進にご尽力いただいておりますことに加え、本会の業務運営に特段のご理解とご協力をいただいております。深く感謝申し上げます。

さて、この年末年始は降雪も少なく、皆様にあっては過ごし易い日々ではなかったかと存じます。

昨年も降雪量が少なかったのですが、その反面、春には山肌が早々と現れ、農繁期の灌漑が心配されました。幸いにも、適宜降雨に恵まれまして、水不足で苦勞した話を聞かずに済むことができました。一方、北海道・岩手県などでは集中豪雨による水害が発生し、農作物や農地・農業用施設にも甚大な被害が生じましたが、本県では大規模な災害は発生せず、最終的な水稻の作況指数は104と平年以上の作柄を確保することができました。あきたこ

まちの概算金も1万円を上回り、ほとんどの皆様にあっては、まずは平穩な一年をお過ごしになられたことと存じます。

また、昨年7月に参議院議員選挙がありました。土地改良の職域からは本県出身の進藤金日子氏が立候補され、12年ぶりとなるご当選を果たされました。選挙運動期間中は農繁期の最中でしたが、皆様の絶大なご支援をいただき、お陰様をもちまして本県では北海道に次ぐ全国第2位の票数を獲得できました。皆様のお力添えに対し、関係者の一人として心よりお礼を申し上げます。

さて、アメリカではこの1月20日に大統領就任式があり、トランプ氏が大統領に就任致しましたが、トランプ氏は従来よりTPP協定からの離脱を明言しており、協定発効の見通しが立たない状況になっております。もっとも、政府は欧州や東アジア地域との経済連携協定(EPA)の交渉も進めており、これらの交渉にあたっては、国内農業保護のため農産物を関税撤廃の対象外にしていただくよう交渉参加国の説得をお願いする次第です。他方、こうした国際化の流れの中、私共農業者は国が進める農業競争力強化の施策を活用し、規模拡大や法人化、園芸作物を取り入れた複合経営などを進め、収益力を向上させる取組を実践していく必要があるように存じます。昨年11月29日には「農林水産業・地域の活力創造プラン」が改訂され、「農業競争力強化プログラム」が新たに加えられました。この「プログラム」の中では土地改良制度の見直しが謳われております。新たに創設される制度として、農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、県営事業として農業者の費用負担や同意を求めずに基盤整備事業を実施できる、といった内容が掲げられております。ここに盛り込まれた制度は、今後、法改正を経て具体化されることとなりますが、皆様にあっては必要に応じてご活用され、収益力の一層の向上に取り組まれますようお願い申し上げます。

こうした農業の収益力の向上はもとより、農業・農村の多面的機能を発揮し国民全体に恵沢をもたらすためにも、しっかりした農業基盤の整備が必要であり、計画的・継続的な整備が求められますが、そのためには、相応の安定した予算措置が必須であります。昨年12月22日に閣議決定された平成29年度当初予算案では農業農村整備関係予算に4020億円を計上していただきました。平成28年度第2次補正予算で措置された1752億円と合わせますと5772億円となり、ようやく平成21年度当初並の水準に達しました。現在、県でも、鋭意予算案の編成に向けた作業をされておりますが、地元の要望に十分応えられる予算措置が可能との感触も得ております。これも皆様からご協力をいただきつつ「闘う土地改良」を続けて参りました成果であり、改めて感謝申し上げます。

今後も「闘う土地改良」の下、予算の安定した確保のため、当初予算単独で平成21年度と同じ水準に達することができるよう、引き続き皆様のご協力をいただき、予算獲得に向けた活動を継続して参りたいと存じておりますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

新年にあたり、国が進める攻めの農業の実現に向け、本会は農業農村整備事業の推進団体として豊かな農業・農村創出の環境づくりに邁進するよう役職員一同決意を新たに参る所存でございます。各水土里ネットや各市町村など会員並びに関係各位におかれましては、本会の運営に対する更なるご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご多幸をお祈りしまして、新年のご挨拶と致します。

# 年頭のごあいさつ



秋田県知事

佐竹 敬久

あけましておめでとうございます。

水土里ネット会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年をふり返ってみますと、これまで県を挙げて取り組んできた「えだまめ出荷量日本一」の2年連続達成をはじめ、園芸メガ団地や大規模肉用牛団地の整備等により、ネギやキク、ダリア等の産地拡大や、秋田牛のブランド化等が着実に進展した年でありました。

昨年末に国が発表した平成27年の農業産出額において、本県は、米価が持ち直したことに加え、園芸、畜産が大幅に伸びたことから、前年に比べ139億円、率にして9.4%と全国トップの増加率となったところであります。

このように長年の課題であった「複合型生産構造への転換」が進んできた背景には、園芸団地の整備等と一体的に進めているほ場整備事業や地下かんがいシステム、モミガラ補助暗渠といった土地改良事業の効果が大きく、これら事業の実施に、日々、現場の先頭に立ってご尽力いただいている水土里ネット会員の皆様に対し、改めて敬意を表し感謝を申し上げる次第であります。

一方で、国の農政改革など、農業をとりまく環境は大きく変化してきており、特に、本県の基幹作物である米については、生産数量目標の配分が本年産を最後に廃止され、平成30年以降、産地間競争の一層の激化が予想されるなど、本年は本県農業にとって極めて重要な年になると考えております。

こうした環境の変化に的確に対応し、本県農業を魅力ある成長産業として持続的に発展させていくため、今後とも、水田農業の生産コストの縮減や複合型生産構造への転換を促進する土地改良が益々重要な役割を果たしてまいります。

県としましては、国庫補助金を最大限活用しながら、農地・農業水利施設の整備を積極的に推進していく方針でありますので、水土里ネット会員の皆様におかれましても、今後とも力強いご支援をお願いいたします。

昨年の参議院選挙においては、全国の土地改良の代表として本県出身の進藤金日子氏が当選されました。本県にとりましても大変うれしいニュースであり、進藤議員には、県選出の国会議員の皆様とともに、本県の農業・農村の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が水土里ネット会員の皆様にとって更なる飛躍の年になりますことをご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

## 目次

### CONTENTS

新年挨拶		保険制度のご案内	8
・本会会長【高貝久遠】	2	平成28年度土地改良関係団体役員講習会	9
・秋田県知事【佐竹敬久】	3	水土里の野菜倶楽部	10
・全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】	4	ちょっと耳より知恵袋	11
・全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【進藤金日子】	5	謹賀新年（新年あいさつ）	12
農業農村整備の集い	6	連合会日誌	12
平成29年度農林水産予算概算決定の概要	7	編集後記	12

# 新年にあたって



全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博

平成29年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、多くの災害に見舞われました。4月には熊本県と大分県で、また、10月には鳥取県で大規模な地震が複数回発生しました。現地では復旧作業が急ピッチで行われておりますが、今なお避難生活を余儀無くされている方々が多数おられます。また、8月末から9月には東北・北海道に、10月には南九州にそれぞれ台風が襲来し、洪水による被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。これまで各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し悲鳴が上がっておりましたし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりましたが、この度、全国の皆様の熱心な要請活動によって、平成28年度補正予算で1752億円を確保するなど、平成29年度当初予算も含め、ようやく以前の水準に近いところにまで漕ぎ着けることが出来ました。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が浸透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、農林水産省では、昨年8月に新たな土地改良長期計画を策定されました。その中で、産業政策として「豊かで競争力ある農業」、地域政策として「美しく活力ある農村」、さらに産業政策と地域政策を支える土台として「強くてしなやかな農業農村」の三つの政策課題を掲げられております。また、昨年11月には、政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農業競争力強化プログラム」が決定され、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の中に位置づけられました。このプログラムには、農業生産・流通の構造改革とともに、真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直しも謳われております。農地の集積・集約化を進めるため、農地中間管理機構が借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担を無くし、事業実施への同意を不要とすること、また、土地改良区の体制強化等についても検討を進めることとされています。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。